

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和8年8月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～③、図3～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口でごく弱い噴気を観測しました。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

21日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測（2025年8月）と比べ、昭和4年火口をはじめとする山頂火口原内の各火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図2-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7～8）

GNSS連続観測では、特段の変化は認められません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

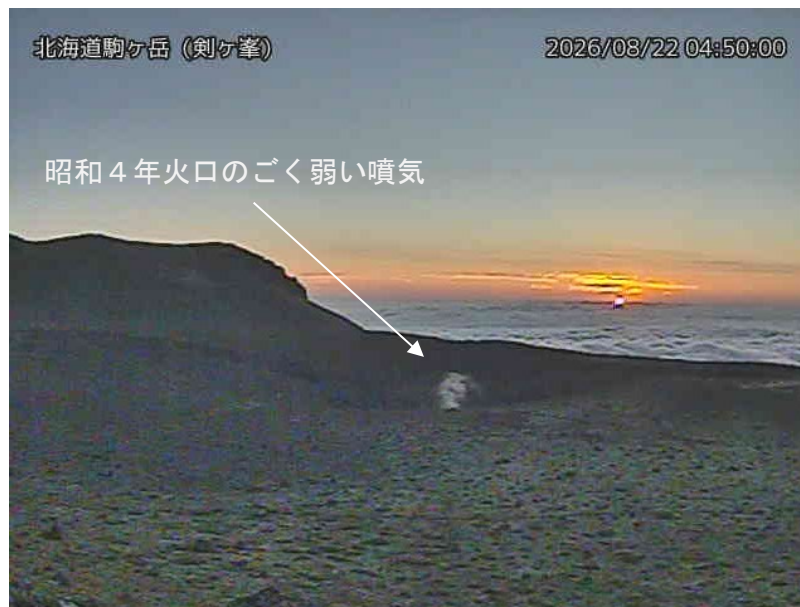


図1 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和8年9月分）は令和8年10月8日に発表する予定です。

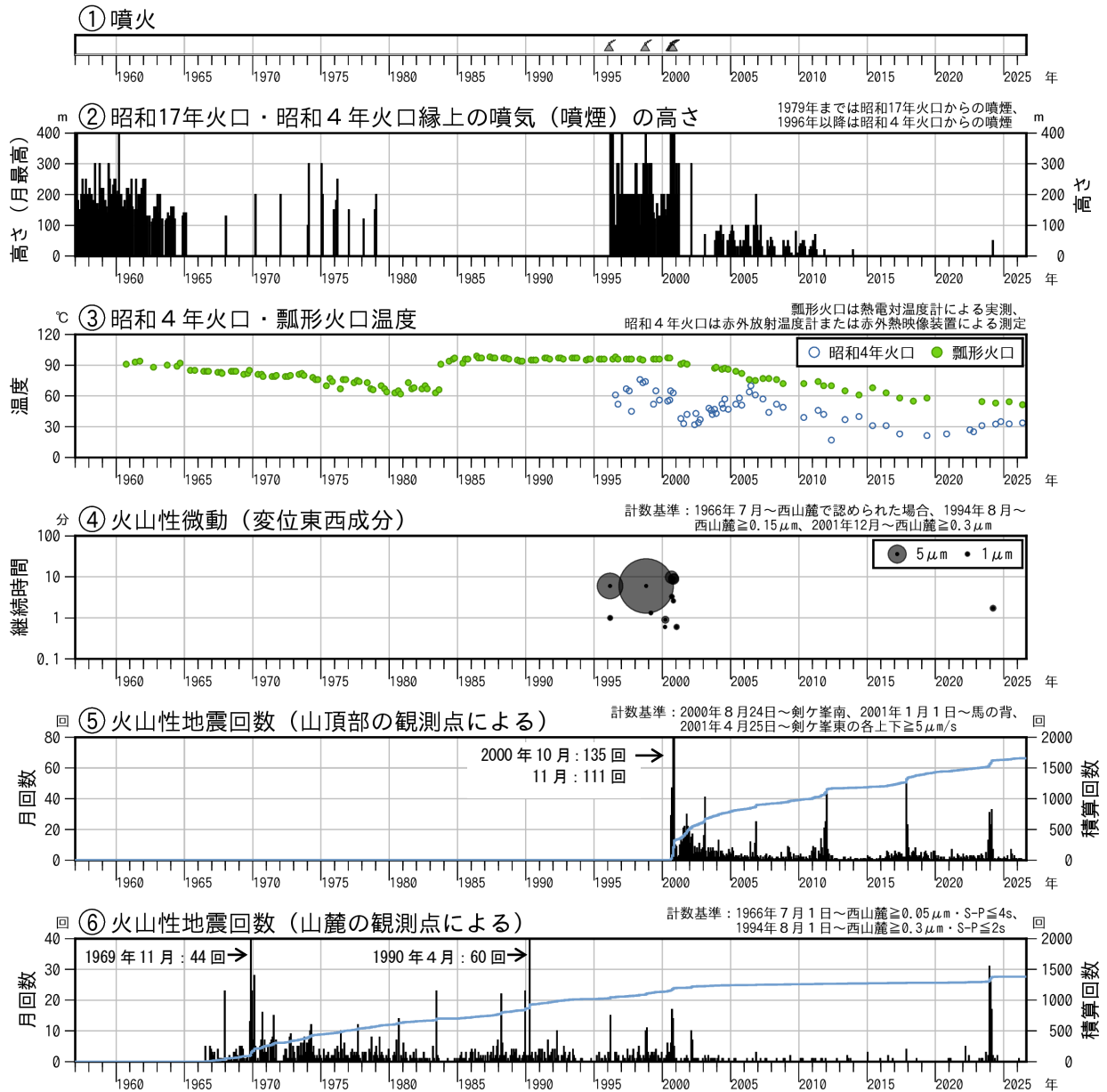


図2 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年8月）

各火口の位置は、図3及び図10を参照してください。

⑤⑥の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は積算回数を示します。

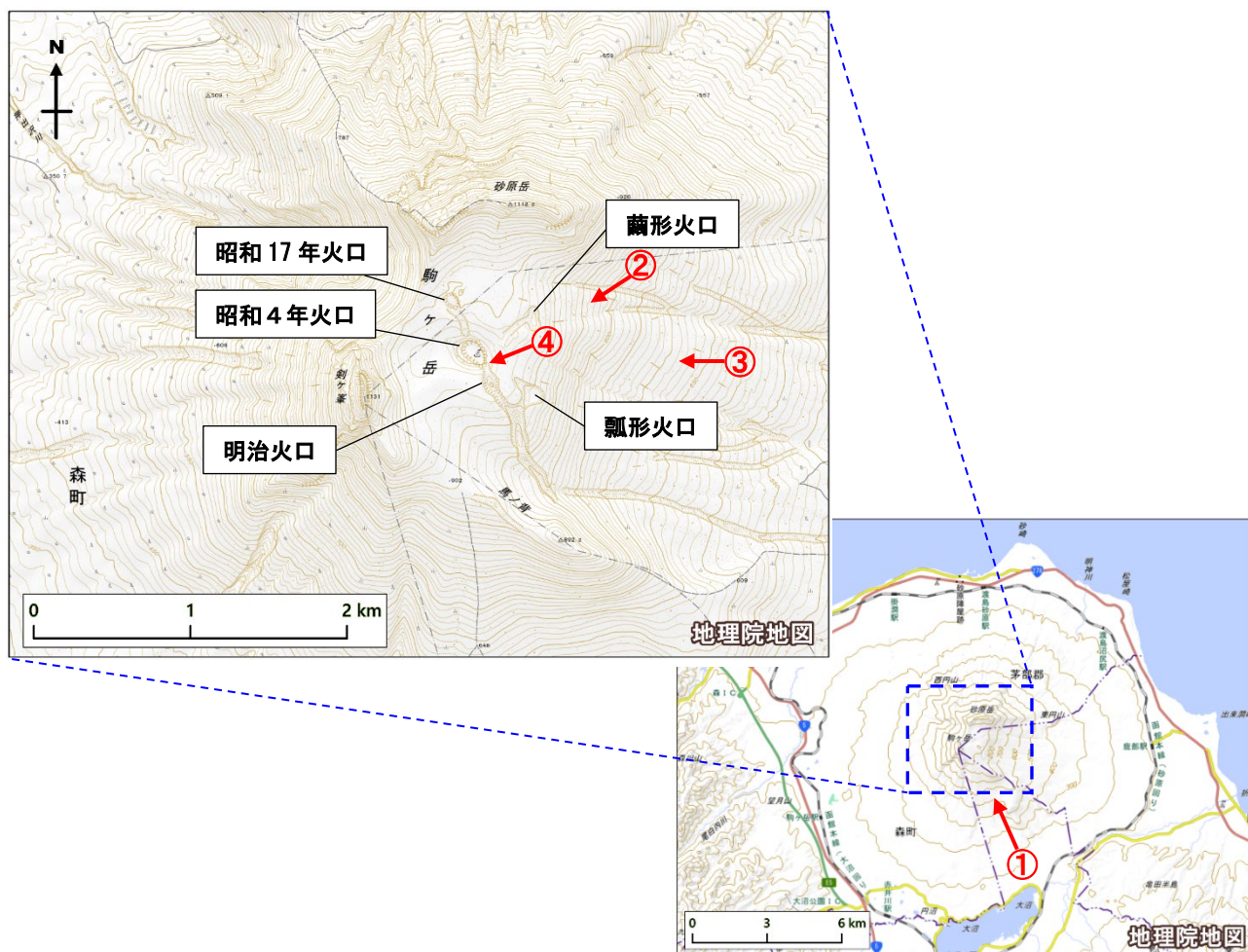


図3 北海道駒ヶ岳 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図4 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況（図3の①から撮影）

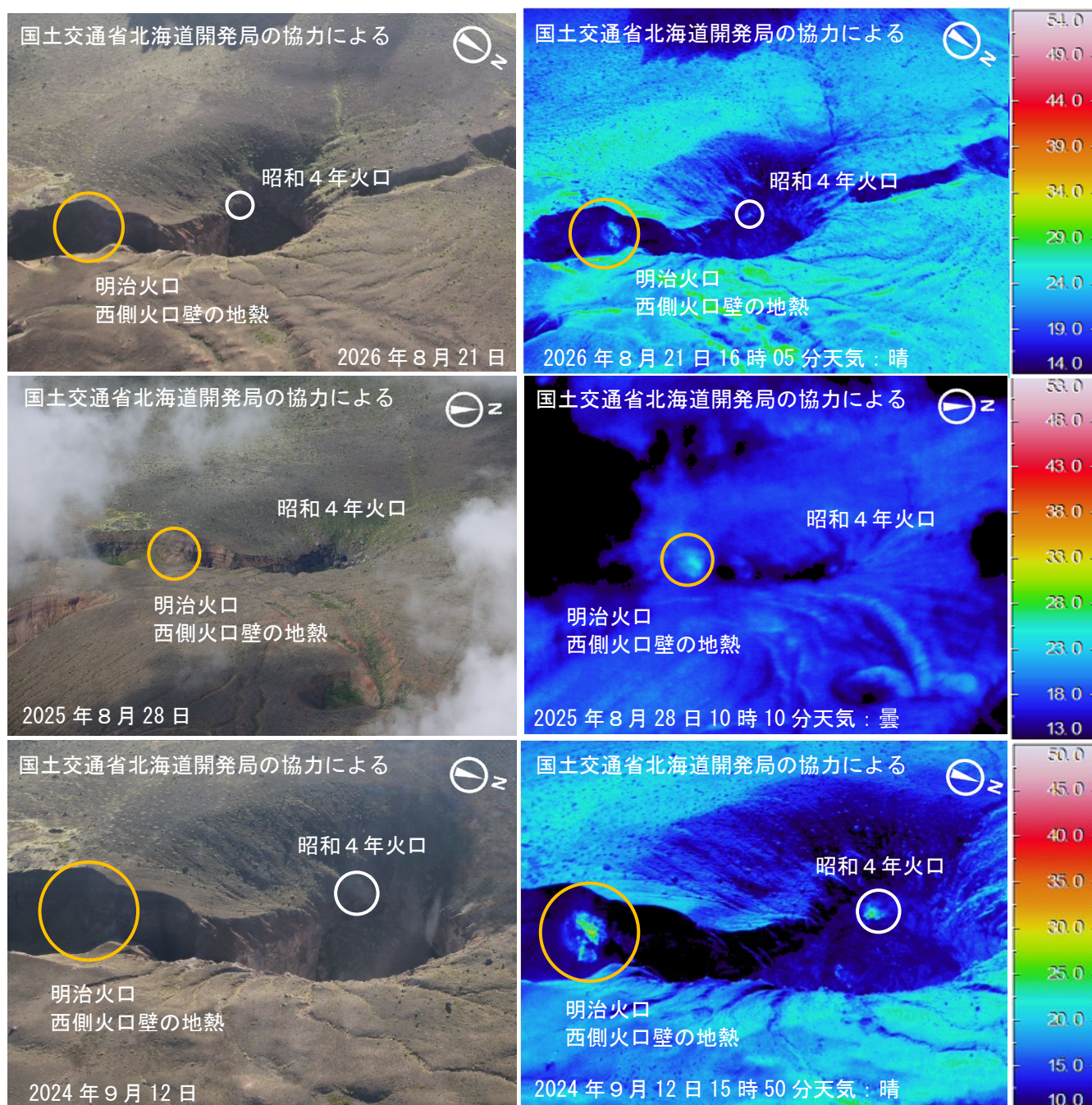


図5 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口及び明治火口の地表面温度分布

上段：北東側上空（図3の②）から撮影

中段：東側上空（図3の③）から撮影

下段：東側上空（図3の④）から撮影

- ・昭和4年火口では、南側火口壁のごく弱い噴気及び地熱域（白円内）を引き続き確認しました。
- ・明治火口西側火口壁に弱い地熱域（橙円内）を引き続き確認しました。

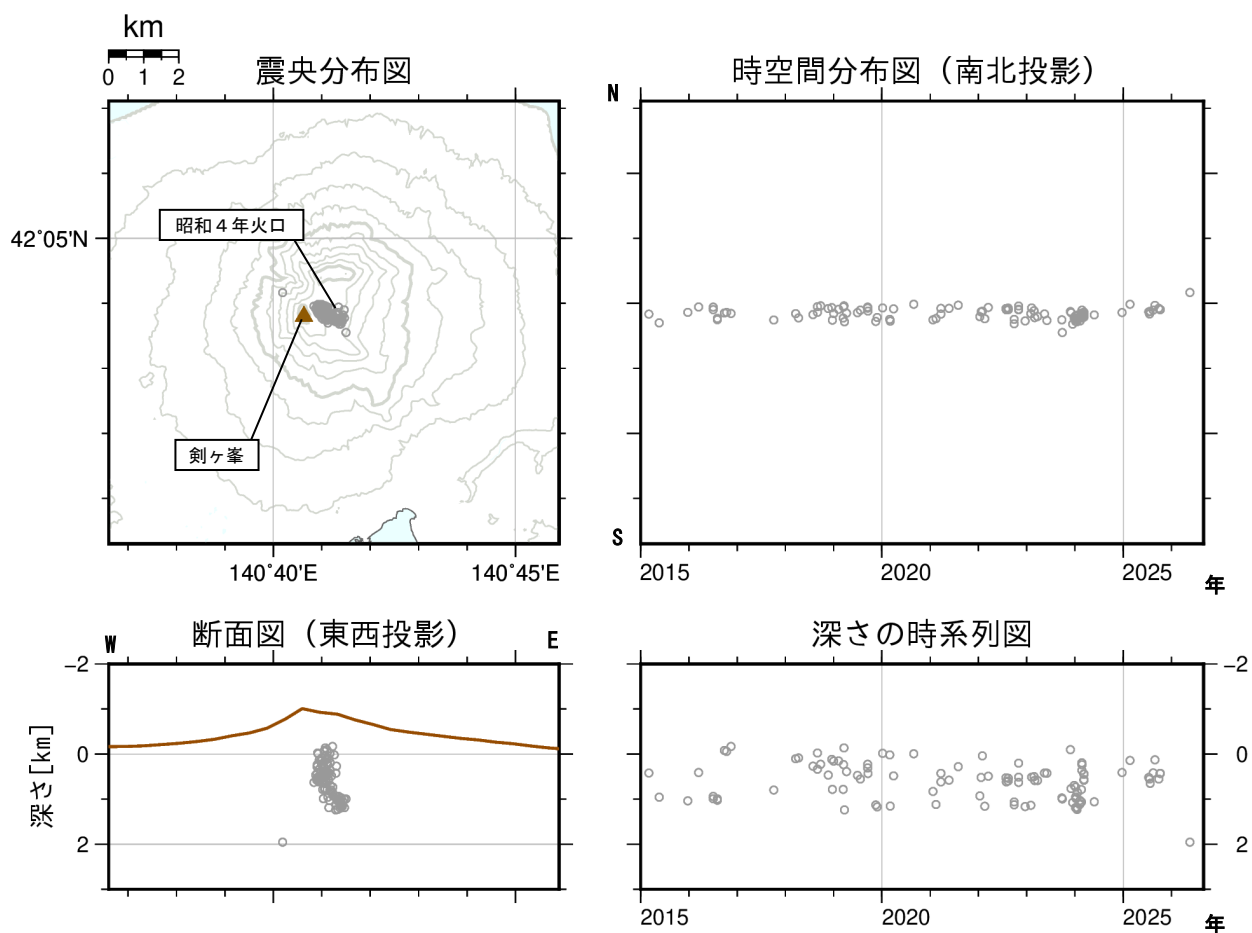


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2026年8月）

○：2015年1月～2026年7月の震源

・今期間、震源の求まった地震はありませんでした。

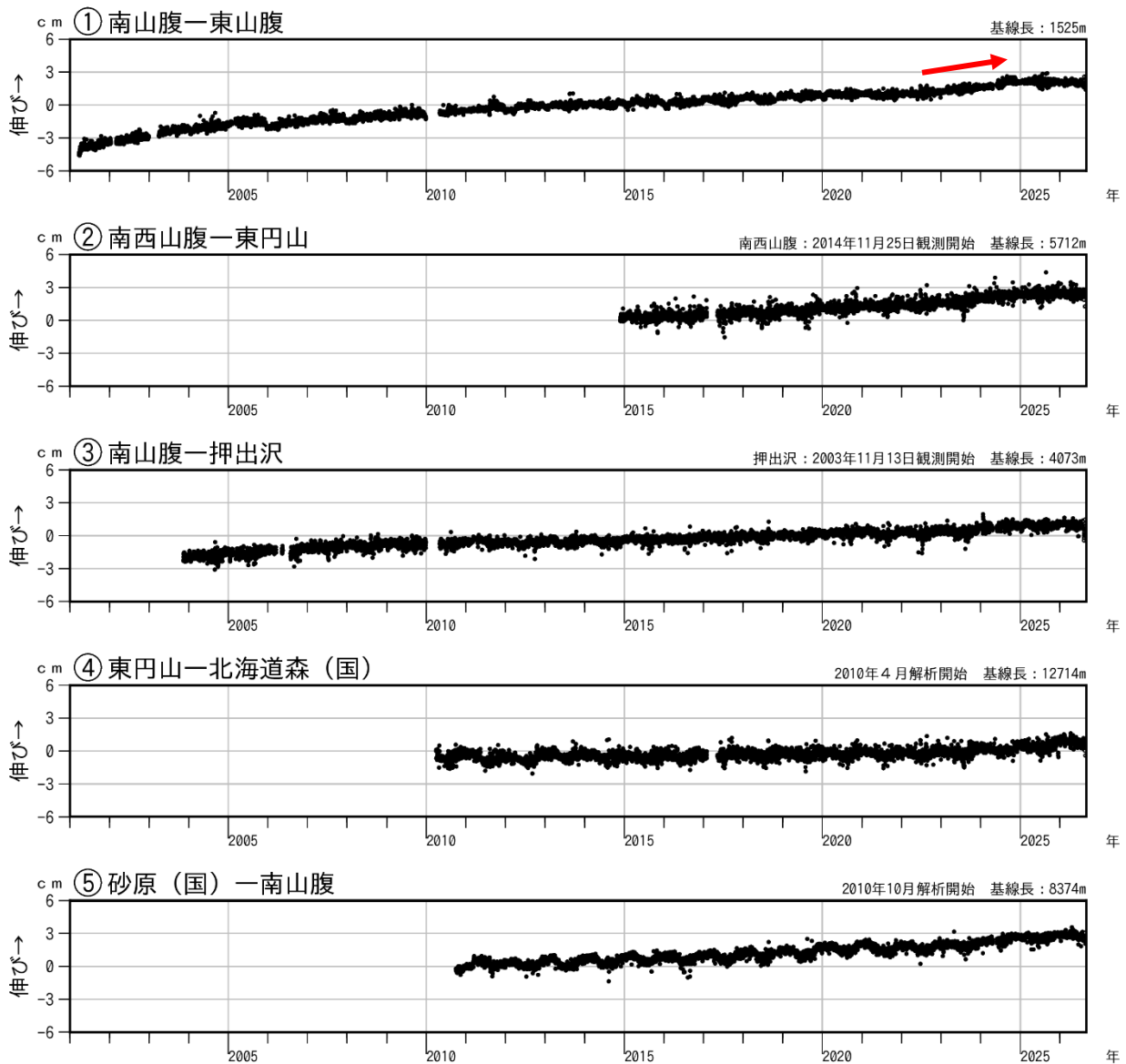


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2026年8月）

グラフ①～⑤は図8の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られましたが、その後は概ね停滞しています。
- ・長期的には、山頂火口原付近を挟む基線（基線①、③）で断続的な伸長が続いています。

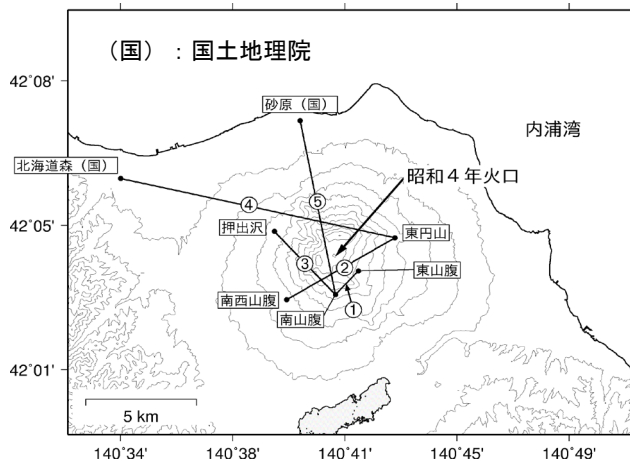


図8 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

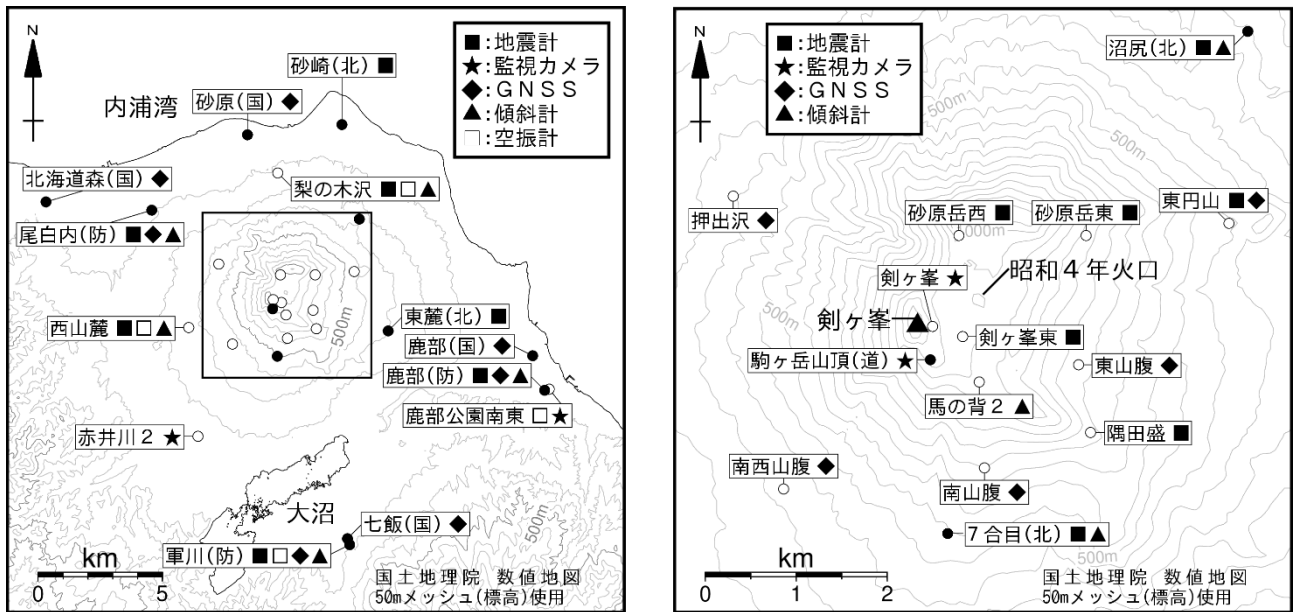


図9 北海道駒ヶ岳 観測点配置図



図10 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図